

(様式 3-1)

平成 29 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 30 年 4 月 30 日

代表者 東畑 開人

研 究 課 題 名	2030 年の心のケアについての医療人類学的研究—心の専門家はセルフヘルプとピアサポートをどう受け止めるのか
研 究 期 間	平 成 2 9 年 4 月 1 日 ~ 平 成 3 0 年 3 月 3 1 日
共 同 研 究 者	
1. 今年度の研究概要	
<p>我が国において 1970 年代より普及した臨床心理学は専門家中心に発展してきたわけだが、1990 年代よりセルフヘルプ・ピアサポートといった専門家よりも当事者中心の「心のケア」が広がり始めている(中西・上野, 2003)。それは従来の「心の専門家」の職能と訓練システムの変更にも繋がっていく大規模な変化であるにも関わらず、現時点では未だこの変化が向かう先を見渡す考察はなされていない。ここに 2030 年という近未来の心のケアへの問いがある。</p> <p>認知行動療法の隆盛、依存症臨床における当事者グループの拡大、オープンダイアログ等の流行は、治療技法としては「自分で自分をケアするセルフヘルプ」、治療主体としては「当事者によるピアサポート」への地殻変動を示すものであり、専門家の権威や権利の縮小を意味している。それがアメリカで先行して始まり、シンガポールで極まっているように、そこには社会的条件の劇的な変化がある。従って、本研究はそのような変化の社会的文脈を明らかにし、このような変化の中で心の専門家が今後いかなる役割を担っていくのかを本研究は明らかにしようと試みた。</p> <p>具体的にはアドラー心理学、マインドフルネス、コーチング、そしてネット上の当事者グループサイトの関係者に広く調査を行った。多くの関係者が調査に協力してくれたため、想定していた人数よりも多くの調査協力者を得ることができた。</p>	
2. 研究の成果	
<p>調査の結果、メンタルヘルスの提供者が、「国家」や「制度」ではなく、「市場」をフィールドにしていることが明らかになり、そこでは専門家はサービス提供者として権威をはく奪されることが明らかになった。この「国家」から「市場」への変化は、現代のグローバリゼーションの潮流と軌を一にするものであり、次世代のメンタルヘルスのありようをよく示すものであった。</p> <p>具体的には①専門家は「ケアする人をケアする」というマネジメント機能を担う存在として定位される可能性があること、②市場時代におけるメンタルヘルスは「働くこと」と「愛すること」の二つに大きく分化して、それぞれに異なる社会階層の人間が利用するものとなること、③ネットの発展によって従来型の「治癒」概念は解体されて、新しい治癒像が生じること、などが明らかにされた。</p> <p>以上得られた成果は、公認心理師時代の「心のケア」概念を大きく変容させるものであると考えられるため、今後次に述べるように単行本として成果を発表し、広く議論を行っていきたいと考えている。</p>	

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

現段階では以下の機会にその成果を発表している。

東畑開人. 書評「心理療法のひらく未来」. 「こころの科学」日本評論社. Pp.108.

東畑開人. 「マーケティング社会と開業心理療法」. 開業精神療法研究会第 27 回大会シンポジウム「精神療法を開業で行っていくことの意義」. 六本木. 2017.4

東畑開人「市場社会と心のケア」 株式会社 Cotree 勉強会 秋葉原 2017.11

これらを通じて、専門家集団内で議論を行っており、それらを踏まえたうえで、今後はこれらの内容を金剛出版の単行本として出版する予定である。

以前の著作「野の医者には笑う—心の治療とは何か」と同じスタイルの著作として、ノンフィクションの文体を取りながら、アカデミックな内容を論じていく著作とする。すでに執筆を始めており、今年度中には出版できると考えている。

加えて、本年度の心理臨床学会におけるシンポジウムで以上の内容を発表し、専門家集団内で議論を行う予定をしている。